

読書の四季

「多読のすすめ」

英語科高一主管 山本昭夫

わたしたちの図書室には、英語の本がたくさんあります。密かに「英語の授業にでなくても、ここにある本を読み続けたら、立派な英語力が身につく」と信じていますが、授業に出席しないと単位は得られませんので絵空事とあきらめるほかありません。しかし、年間の百日以上が休日もしくは長期休暇という恵まれた学習環境にあるみなさんは、授業に影響されることなく年間百日以上その「絵空事」を実現できるのです。英語の本を読むなんて、と思う方はぜひ英語の本のコーナーへ行ってみてください。図書室にある英語の本には、大きく三種類あります。

Leveled Readers は、英語を母語とする児童向けの学習用絵本で、絵がふんだんに使われています。もつとも簡単な本には、

英語が書かれていません。我がが幼少時に母語の絵本を読み始める時も、最初はことばがありません。ことばがなくても物語が進行し、「本を読む」という体験が始めるのです。「もしことばが書かれているとしたら、どんな英語が書かれているかな」と想像することは、のちに意味を考えながらの読みや推論読みにつながる大切な行為です。

Graded Readers は、英語学習者向けに使用される英単語や英語表現に難しいものはなく、基本的に辞書なしです。古今東西の有名なお話や読者にとって興味関心の高いと思われる題材が内容として選ばれ、楽しく読書することができるように配慮されています。

Paperback は、英語話者向けの廉価版の本です。厚紙を使わず、持ち運びしやすい大きさの本で、日本の文庫本に相当しま

学習院高等科
図書委員会

会報
No.108

発行
2013.12.21

す。図書室には、源氏物語の英訳から遠藤周作、三島由紀夫、村上春樹まであります。

どの本から挑戦してみましよう。英語の授業では、多くの場合読むべき英文が与えられてしまい、読みたいものを読むという経験自体が新鮮なものです。英語多読には、三つの秘訣があります。まずは易しい本から読み始めます。背表紙や表紙を眺めて手にとってその場で読み始めてみましょう。Leveled Readers ならその場で何冊も読めます。最初のページが気に入ったら、貸出カウンターへ行きます。やや難しい、Leveled Readers は数冊、Graded Readers でも二冊くらい借りてみましょう。借りた後は、休憩時間や通学時間などの空き時間に読みます。

次の秘訣は、未知語が出てきても気にしないで飛ばして読むことです。多読のときには基本

的に辞書は引きません。未知語や知らない英語表現がどんな出てきて内容がわからなくなったら、読むのをやめて次の本にしましょう。でも、そんなことをして何を学べるのかと疑問に思う人もいるかもしれません。実はとても大切な力を養うことにつながります。

→二面に続く→



く一面から、英語多読で得られるものは、英語を読み続ける力です。私はこれをReading Staminaと呼びます。Reading Staminaがなければ、英語の本を読み続けることはもちろん、英語の長文問題などにも苦勞します。認知心理学者の高野陽太郎先生によりますと、外国語を使うときに「外国語副作用」という症状が出て、母語でできることが容易にできなくなり、スタミナ切れもその一つと考えられます。Reading Staminaを鍛えるには、難しい本よりも易しい本を選び、負荷を減らして長く読み続けることに主眼を置きます。Leveled Readers を百冊くらい読むとGraded Readers の簡単なものが読めるようになるでしょう。Leveled Readers でおすすめのシリーズは、Oxford Reading Tree, Magic Tree House ですが、ほかのシリーズも絵や写真などが綺麗で心惹かれます。Graded Readers では、まず Penguin Readers や Macmillan をお勧めします。そのほかにもFiction/Non-fiction を問わず、魅力的なお話がたくさんあります。

本を読むという行為は人にしかできませんが、生得的でない分、話しことばよりも認知負担が高く、読みます。普段本を読むとはさらに冒険です。しかし人は冒険に魅了されて未開地へ向かい、新しい経験を味わいます。この冬の期間、英語多読に没頭してはいかがでしょう。

WHY DON'T YOU TRY
VOLUME READING?



皆さんは十一月の二日三日、図書室にG神社なるものができたのをご存じだろうか。今年、図書室ではある神社についての展示を行った。その神社というのは「出雲大社」と「伊勢神宮」。国内一といっても過言ではないほど有名なこの二つの神社、その違いなどを詳しく説明したり、G神社の鳥居のそばにはおみくじを設置したり、クイズも解いてもらって参加賞としてしおりを渡したりし、お客さん、特に子供たちに喜ばれた。模造紙では神道や「神宮」「大社」「社」「神社」の違いを導入として「出雲大社」「伊勢神宮」について説明した。さらに閲覧席では映像や図書委員制作の資料を用いて学校紹介をした。それでは少し詳しい内容を説明しよう。おおまかに、神道というのは日本の宗教であるが、

鳳櫻祭



明確な教義や教典があるわけではなく、「古事記」や「日本書紀」などに基づいた自然信仰のこと。すべてのもに神が宿ると考えられている多神教。その「神」が「八百万の神」である。祭りなどを重要視する。「社」とは神が来臨する聖域を指し、「宮」はそこに設けられた祭りのときの仮屋だったらしい。しかし、「宮」が立場を逆転し、最高位の社格となった。そんな「宮」の中でも「神宮」は別格で、三社しかない。中でも「伊勢神宮」は全国八万社の神社の頂点に立つ御宮である。「社」の信仰の代表が「大社」となった。

ちなみに今年の鳳櫻祭は図書室に1186人も人がきてくださいました。ご来場いただいた方々、ご協力いただいた先生、司書の方々、ありがとうございました。

一年 高見澤 勇布樹

